

取扱説明書 Ver2.4

無線送信機・受信機(WhiteLock100オプション)SN_Tx、SN_Rx

本装置は、各種機器やセンサーなどの信号出力を離れた場所に無線電送する装置です。受信機1台と送信機1台のセットで使用します。

通報装置を設置する場所に電話回線が無かったり、配線工事に手間と費用がかかる場合に大変便利に手軽にご利用いただけます。

本装置は他社類似商品には無い、便利な機能があります。実際に操作されるとき、まるで線がないであるかのように動作しますから不思議に思われる方もあるかもしれません。この製品本来の目的はここにあります。

特徴

1. 到達距離

長年の技術のノウハウで、飛躍的な到達距離をさりげなく演出しています。

2. 妨害波・雑音対策

他の電波や雑音により信号を正しく電送できなかったときのために、180秒経過する度に現在の信号状態を再送信します。再送信は電源を切らない限り常に更新されます。(Ver2.0以前は、30秒)

3. 初期状態の伝送機能

送信側の電源がONになったとき、現在の入力状態を必ず1回送信します。

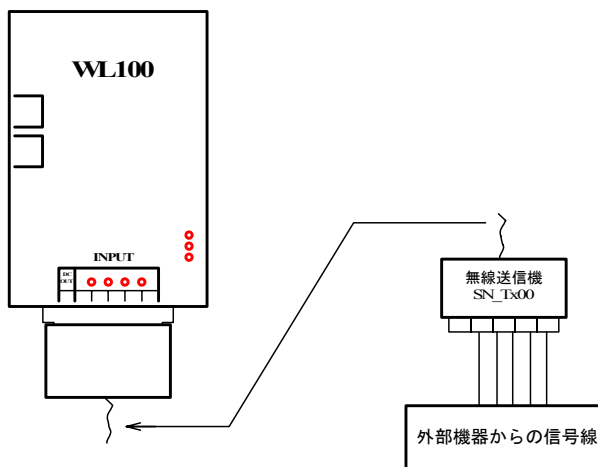
4. 受信エリア調査モード装備

送信機の設置位置を仮り決めした状態で電波の到達範囲（利用できる範囲）の確認が出来ます。お客様の不安を取り除き安心して設置場所が決められます。

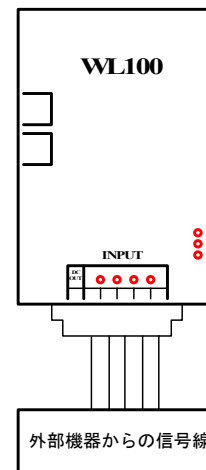
5. 送信ユニットに入力信号の状態をモニターするランプを装備しました。

6. これだけの特徴を備えてしかも超低価格を実現しました。

オプションを使った場合



従来の方法



セットの内容 (送受信バラ品は、下記と異なります)

1. 無線送信機 SN_Tx00にはA Cアダプタと端子シールが付属しています。
2. 無線受信機 SN_Rx00 (付属品はありません)
3. 説明書 (本書)

ご注意

この無線オプションは通報装置「WhiteLock100」専用です。他の用途には流用しないで下さい。

到達距離は、取付位置の環境により、本書に記載している仕様より短くなる場合があります。特に鉄筋コンクリートや地下室、トンネル内でご使用になる際は、ドアなど閉めた状態で、出来れば雨が降り続けているときに安定して動作できるか十分に確認して下さい。

無線送信機や受信機のアンテナ線 (黒の線) は、出荷時に長さが厳密に調整されています。短く切ったり、長く伸ばしたりすると、整合性が取れなくなって到達距離が極端に短くなりますからこのようなことをしないでください。

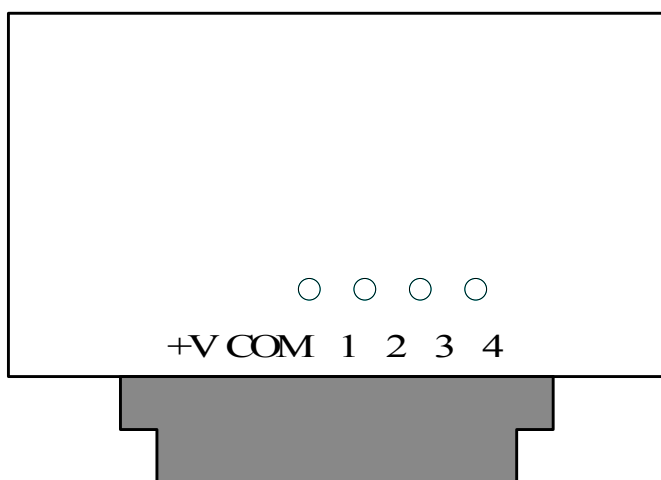
アンテナ線は、鉄板やコンクリート等から30Cm以上離れるように設置して下さい。また、ぶらぶらするからといってテープで壁などに貼り付けしないで下さい。到達距離が短くなります。

本装置の通信は単方向方式で、双方向ではありません。

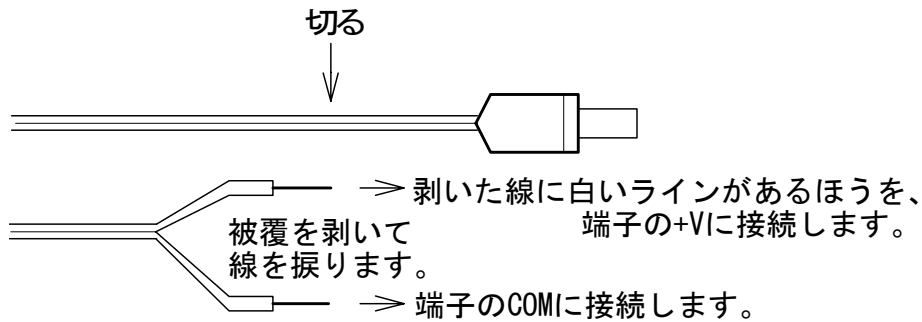
無線受信機 SN_Rx00 を通報装置 WL100シリーズに取り付けて使用する場合は、WL100内部のJ2を短絡させる必要があります。間違えてJ3を短絡させた場合は、**確実に受信機が壊れます**。十分ご注意下さい。

接続の前に

1. 無線送信機 SN_Tx00に添付の端子台シールを図のように貼り付けて下さい。



2. 付属しているA Cアダプタのプラグを取り外して、電線の先端を図のように加工して下さい。端子台に接続するとき、極性を間違えないように接続して下さい。間違えて接続しても壊れることはありませんが正しく動作しません。



接続が終わったら、ACアダプタをコンセントにさしてから端子のCOMと1を電線で短絡します。1のランプが点灯すればACアダプタの接続は正しくできています。点灯しないときは、コンセントに100Vが来ているか。また、接続が正しいか確認下さい。

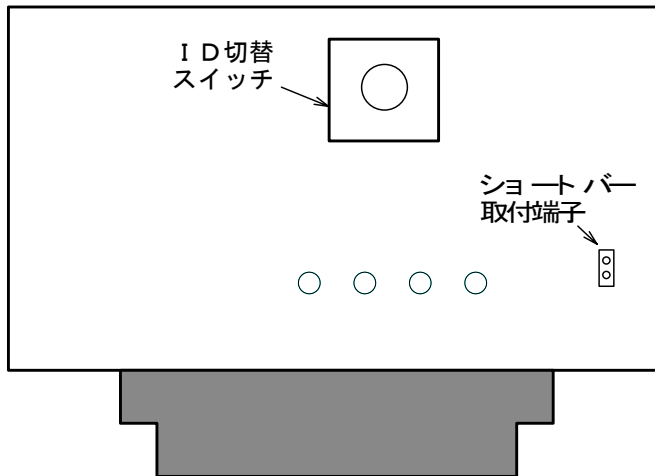
- 無線受信機 SN_Rx00を取り付ける通報装置 WL100 の蓋を開けて基板左下のJ2を短絡させます。既に短絡済みの場合は必要ありません。この作業はハンダゴテが必要です。また、作業が緻密ですから弊社にご用命下さいませ。作業にかかる費用は、送料（往復）のみです。間違ってJ3を短絡させた場合は、**確実に受信機が壊れます**。十分ご注意下さい。ご自分で作業を行う方のために、加工要領書を準備しています。お申し付け下さい。

試験及び設置場所の決定

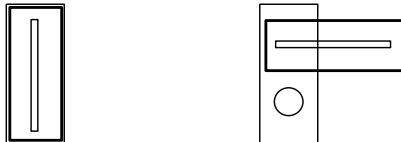
ここでは目的の場所に設置する場合の手順を説明します。

1. 机上での確認

無線送信機 SN_Tx00のショートバーを取り付けます。



取り付けた状態では図の左のようになります。取り外したときは、紛失防止のため右図のように片側のみ差し込んでおきます。



今はテストをするために左図のようにしておきます。この設定は、送信機の電源がONになったとき有効となります。Ver2.1より変更。

ID切替スイッチがゼロの位置にあるか確認します。違っているときは、ゼロに設定します。

2. 受信エリアの確認

通報装置 WL100シリーズを準備します。

無線受信機 SN_Rx00 の ID切替スイッチがゼロの位置にあるか確認します。違っているときは、ゼロに設定します。

テストに使うWL100シリーズは、付属の9V電池が十分に充電されているか確認して下さい。

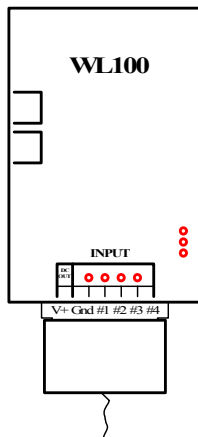
WL100が、24時間以上通電された後であれば充電は完了しています。

WL100は設定や音声録音をしていなくてもここでのテストは可能です。

ここで使用するWL100シリーズは「接続の前に」で説明しているように内部のJ2を短絡する必要があります。

図のように無線受信機 SN_Rx00を接続します。WL100シリーズの端子台をゆるめてから受信機のピンを差し込んで締めします。

取付方向はWL100シリーズの正面に向かって、端子上側から受信機を差し込みます。



WL100シリーズのWRITEスイッチをONにしてからPOWERをONにします。

LP2、LP1、POWERのランプが点灯します。

2. 無線送信機 SN_Tx00のACアダプタをコンセントに差し込みます。

WL100シリーズの#1のランプが点滅します。

点滅しないときは、ID切替スイッチが送信機受信機共にゼロの位置にあるか確認して下さい。

3. 受信エリアの確認

点滅した状態のままWL100を設置したい位置まで移動します。

設置場所付近では半径1m程度の範囲で点滅が不規則になったり、点灯したままあるいは消灯したままにならないことを確認します。

送信機、受信機の取付場所は、通常使用するときと同じようにドアや窓、扉などは閉めた状態で確認して下さい

本稼働

1. 送信機、受信機のIDスイッチを合わせます。（任意の数値にセット）送信機、受信機のIDが異なる場合は正常に動作しません。

2. 送信機のショートバーを取り外した状態にします。（★送信機に通電する前に外しておきます。）

3. 受信機を取り付けたWL100を所定の位置に取り付けます。

4. 送信機の端子に外部機器からの信号線を配線します。WL100の端子接続の説明を併せてごらんください。

5. 送信機のACアダプタをコンセントに差し込みます。

仕様

無線送信機 SN_Tx00

電源 DC 8.0~13.0V (9.0V時最大消費電流70mA)

信号入力 無電圧接点またはオープンコレクタ (通報装置WL100シリーズと同様)

チャタリング防止のため 1秒以上入力信号が継続しているときに有効となります。

信号点数 4点

信号確認モニタ LEDランプ

イベント送信 入力変化時に0.5秒間送信
イベント再送機能付き

無線受信機 SN_Rx00

電源 通報装置 WL100シリーズから供給 (WL100内部のJ2ジャンパが必要) DC 5.0V±5%
信号出力 4点 TTLレベル電圧出力

利用有効距離

雨の降った日のモルタル作りの住宅の屋内同士で300mが、通常使われる限界です。
建物や山などの障害物がある場合は短くなります。

IDスイッチ

0～Fの16種類

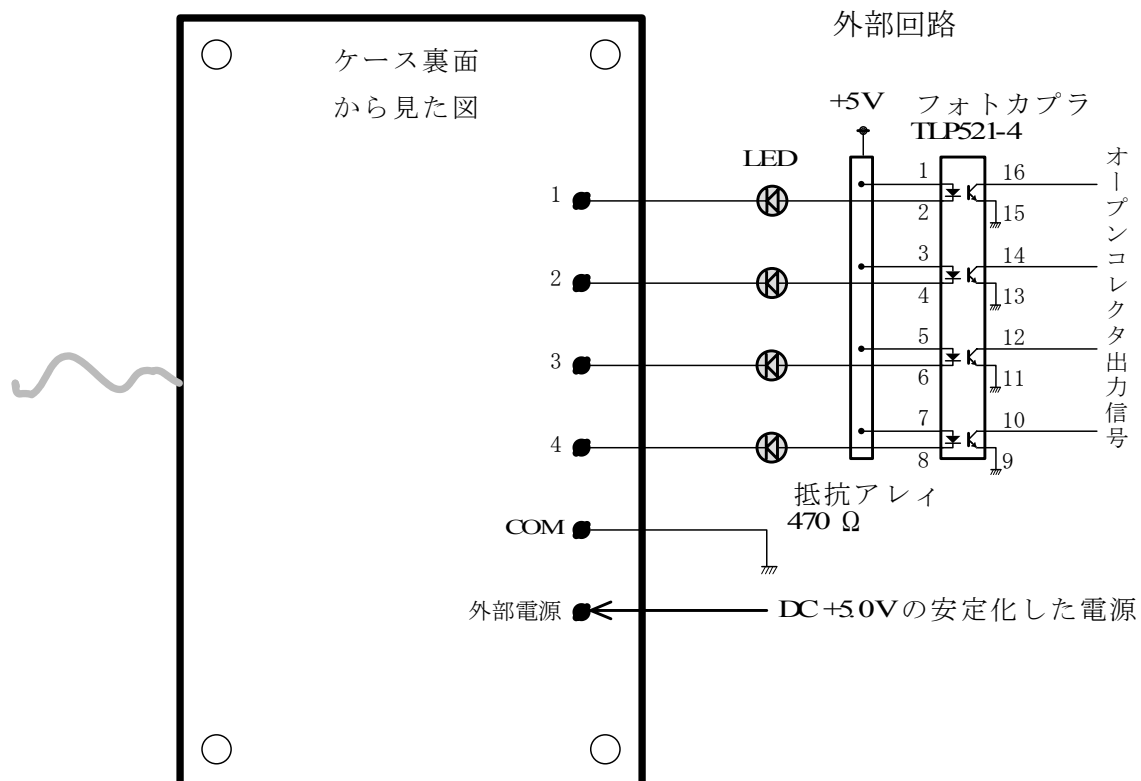
注意事項

送信機のACアダプタをコンセントから抜いても15秒程度はACアダプタから電源が供給される場合があります。
ショートバーの切り替えは、ACアダプタをコンセントから抜いて15秒以上経過してから再びコンセントに差し込むようにしてください。

本製品を単独で使用する場合

受信機の外部回路を下記のように作成して利用します。

ご注意:電源電圧は、5.0Vです。これより高い電圧が加わると、受信機のCPUが故障します。
尚、外部回路を作成された場合の故障修理は保証外となり、有償修理となります。



更新履歴

2005/03/31 Ver2.4

- ・ 住所を変更

2002/9/11 Ver2.3

- ・ 「受信機 1 台と複数の送信機のセットで使用します。」と書いていたのを「受信機 1 台と送信機 1 台のセットで使用します。」に変更した。

発行元 株式会社 **アドコン**

<http://www.adocon.co.jp/>

本社 TEL (0852) 54-2036 FAX (0852) 54-2196
〒690-2101 島根県松江市八雲町日吉3-24

東京営業所 TEL/FAX (03) 3784-1421
〒142-0053 東京都品川区中延5-7-16